

第1回 兵庫県のサイクルツーリズム推進に向けた

淡路地域モデルルート推進協議会 議事要旨

1. 日 時 令和元年6月5日(水) 10:00~12:00

2. 場 所 兵庫県洲本総合庁舎3階 会議室A

3. 出席者 別紙のとおり

4. 議 事

- (1) 自転車活用推進法・自転車活用推進計画について
- (2) サイクルツーリズムの現状
- (3) 協議会の目的、検討内容について
- (4) ナショナルサイクルルート制度について
- (5) 淡路地域におけるこれまでの取り組みについて
- (6) 兵庫県のサイクルツーリズム推進について
- (7) 淡路地域におけるモデルルートについて
- (8) 今後の進め方について

5. 議事概要

○主な意見

[走行環境整備に関するもの]

- ・南あわじ市の丸山地区等、2車線が確保できていない区間がある。時間はかかるが、将来的には2車線での整備をお願いしたい。
- ・多くの人を呼び込むためには、安全に走れることが大事。そのためにも道路の整備は重要。
東側の国道28号は、大型車の交通量が多く路肩幅が狭い区間を、混在で走行している。今年の10連休中も大型車が自転車を追い抜く際に接触事故が発生している。
また、東側南部の県道は、交通量は少ないが、道路幅が狭く、センターラインが無い。見通しも悪いため、自転車と自動車とが正面衝突する事故が発生している。
- ・ナショナルサイクルルートの指定要件の案にもあるように、誰もが安全・快適に走行できる環境は大事であり、そのためには道路整備は重要。本協議会、地域全体でサイクルツーリズムの

振興に取り組むなかで道路整備につなげたい。

- ・自転車がが増えてくると追い抜く箇所が無いと交通の流れが悪くなる。自転車を追い抜く箇所は、安全の確保という意味でも重要。ルートの設定に際しては、こうした観点も重要。
- ・長い延長を拡幅整備するのは、難しいので、急な坂道の途中などポイントを押さえて自転車の退避箇所を整備し、サイクリストに看板で利用の呼びかけを行っていくことを提案する。こうした整備を行うことで、地元住民や自動車で訪れる観光客の理解や協力につながる。
→【事務局】サイクリスト団体の方からは、一つのグループで長い車列になると自動車が追い抜けなくなり迷惑になるので、間隔を開けて走行するなどサイクリストにもマナー啓発が必要という意見を頂いている。
- ・拡幅が困難な箇所については、矢羽根型路面表示などの路面表示が有効ではないか。
→【事務局】走行空間やルート案内の路面表示の導入に向けて、県警と調整している。今年度、矢羽根型路面表示を淡路市で実施予定であり、整備効果やサイクリストの意見に参考に進め方を検討したい。

[サイクリスト受入環境の充実に関するもの]

- ・アワイチは、スタートとゴールの箇所が北部の岩屋に集中していることが課題。昼食や休憩箇所が一定の地域に集中してしまう。福良や洲本をスタート地点にしてもらうためのPRをしていきたい。そのためには、駐車場の確保、船や高速バスの活用を検討する必要がある。また、宿泊施設を起点にしてもらうことも検討している。
- ・サポート体制では、自転車の故障に関する問い合わせが多いが、淡路には自転車店が少ないことが課題であり、対策の検討が必要。
- ・夕方のゴール付近になるとグループの仲間どうしがはぐれてしまうことがある。
- ・淡路島を訪れているサイクリストはお金をあまり使わないという意見が多い。
地元の工夫不足だと感じている。おもてなしポイントの充実が必要。
- ・しまなみ海道は、地域ぐるみのおもてなしが素晴らしく参考にすべきという意見がある。
- ・淡路島でも、サクラマスやハモ、3年トラフグ、淡路島牛井などのプロジェクトは、地域全体の取り組みとして成功している。このような地域ぐるみの取り組みをサイクリングでも実施できないかと考えている。淡路では、今後、花みどりフェアなどの大きなイベントも控えている。
目標を決めて、地域を挙げておもてなしを磨き上げていく取り組みが必要。
- ・シティタイプのレンタサイクルを島内3箇所で行っている。島外から高速バス等で淡路島に入った観光客の2次交通として、自転車のニーズは高い。今年の10連休もほぼ予約で一杯の状況であった。今後、電動アシスト付きのスポーツ自転車（E-Bike）のレンタルを開始する予定。

[サイクルルートの広域連携に関するもの]

- ・現在検討中の大鳴門橋を活用した自転車道が実現すれば、広域的なサイクリングルートが形成されるので推進をお願いしたい。
- ・本格的なサイクリストに対しては、瀬戸内海一周や大阪湾一周など、広域連携による取り組みにより、宿泊など地元で経済効果が生まれる仕組みができるのではないかと考えている。

[モデルルート以外のルートでの取り組みに関するもの]

- ・淡路島でのサイクリングの魅力は、内陸ルートを使った距離の短いルートの選択が可能なこと。モデルルートと並行して地域ルートも検討してはどうか。
- 【事務局】本協議会では、アワイチルートをモデルルートと位置づけ、ルートを決めて優先的に対策に取り組み、ナショナルサイクルルートを目指していきたい。併せて、多様なニーズに対応できるように、地域ルート、モデルルートを補完するルートとして、アワイチのショートカットルートの対策についても検討していく。

[情報発信に関するもの]

- ・PRは、予算がない中でも尖ったものをつくってきちんと伝えれば、お金をかけなくても効果的なことができる。テレビなどのメディアは取り上げてくれるし、SNSでも情報が拡散する。

[維持管理に関するもの]

- ・道路の日常管理の充実も重要。ロングライド150では、路面清掃の実施により、土砂や落ち葉で滑って転倒する事故が減少した。

[マナー啓発に関するもの]

- ・自転車は、原則車道走行となったが、すぐに全ての道路に自転車の走行空間を確保することは困難。自動車と自転車が道路を譲り合い、互いに協力しながら道路を安全に走行する取り組みの検討も必要。
- 【事務局】静岡県伊豆半島等では、シェア・ザ・ロード1.5m(思いやり1.5m運動)という自転車と自動車がお互いの立場を思いやって譲り合う活動を展開しており、今後検討していきたい。

[その他]

- ・10年前に淡路島ロングライド150が始まってからサイクリストの数は大幅に増えた実感があるが、実際、どれぐらいのサイクリストが走っているのか調査したデータを知りたい。
- 【事務局】3月末より、路面に埋設したセンサーでの計測を2箇所で開催中であり、次回状

況について説明する。

- ・今年もロングライドに 2300 人ものサイクリストが淡路にやってくるので、アンケート調査を行って生の声を聞いてみてはどうか。
→【事務局】ロングライド主催者と調整する。また、アワイチを走行するサイクリストが立ち寄るサイクリストカフェでのアンケート調査を予定している。
- ・7 月からデジタルスタンプラリーを行うが、そのコースにもアワイチルートと 3 つのショートコースが選択できるようになっている。このイベントの結果も参考にして頂きたい。

以 上

第1回 兵庫県のサイクルツーリズム推進に向けた
淡路地域モデルルート推進協議会
出席者名簿

<委 員>

区 分	氏 名	役 職 等	出欠
道路管理者	日野 雅仁	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所長	○
	山田 弘	兵庫県県土整備部土木局道路保全課長	○
	小山 健一	兵庫県県土整備部土木局道路企画課長	○
	雨宮 功	兵庫県淡路県民局洲本土木事務所長	○
	太田 久雄	洲本市都市整備部長	○
	喜田 憲和	南あわじ市産業建設部長	○
	高田 茂和	淡路市都市整備部長 (代理：都市整備部次長 水名口 博行)	○
交通安全	衣笠 泰三	兵庫県警察 洲本警察署長 (代理：交通課長 木下 義男)	○
	藤原 孝治	兵庫県警察 南あわじ警察署長 (代理：交通課長 江本 寿)	○
	葉狩 哲幸	兵庫県警察 淡路警察署長 (代理：交通課長 藤原 正年)	○
	後藤 忠毅	淡路地区交通安全協会連絡協議会 会長	
観光	吉野 康之	兵庫県淡路県民局県民交流室 参事 (代理：未来島推進課 班長 平岩 一宏)	○
	永岩 秀俊	洲本市産業振興部 参事(商工観光担当)	○
	新阜 照久	淡路市産業振興部長 (代理：産業振興部次長 江崎 昌子)	○
	福浦 泰穂	(一社)淡路島観光協会 事務局長	○
交通	森崎 芳文	淡路交通(株)運輸部長 (代理：運輸部次長 東根 孝行)	○
	清水 紀晶	(株)淡路ジェノバライン 運航統括管理者	
利用者	原 拓生	淡路島自転車推進協議会	

(順不同・敬称略)